

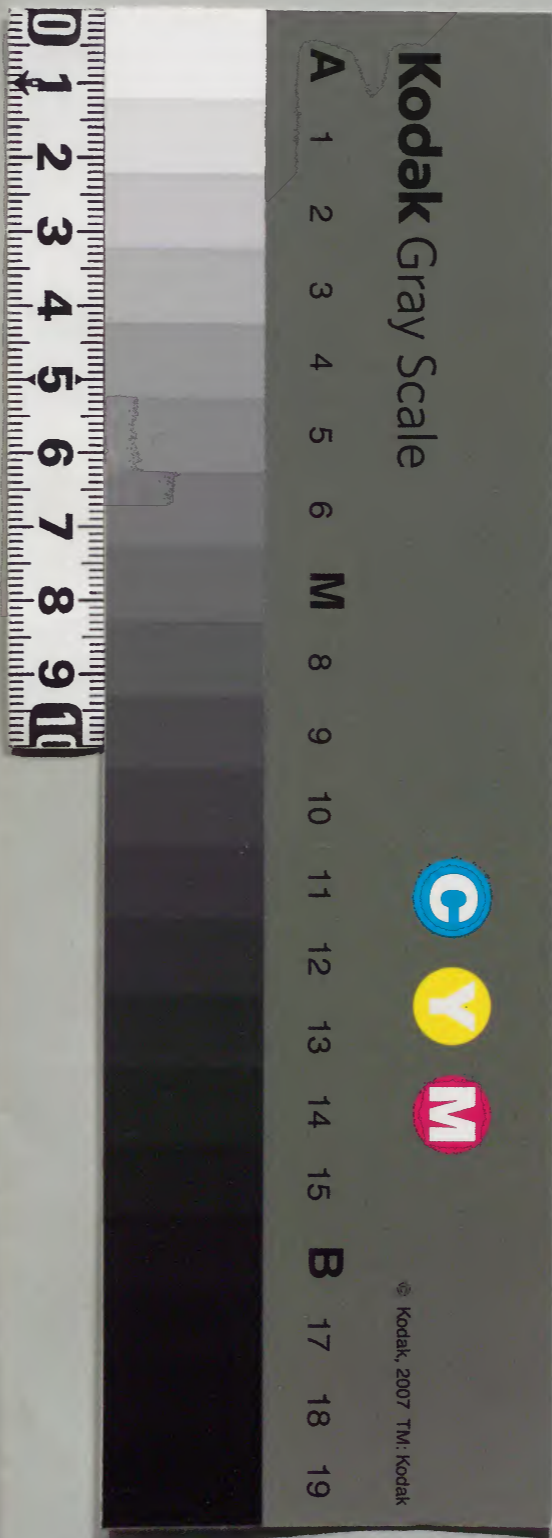
續談海

廿六

| | | | |
|-----------------|----|----|----|
| 和書門 | | | |
| 五〇 | 一〇 | 二〇 | 三〇 |
| 冊 | 架 | 函 | 號 |
| 八六三三 | | | |

| | | |
|------|------|----|
| 庫文閣内 | | 和書 |
| 一五〇 | 八六三三 | 冊 |
| 函 | 五〇 | 架 |
| 一六 | 冊 | 架 |
| 架 | 號 | 類 |

| | |
|------|-----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 |
| 冊數 | 50 (8633) |
| 函號 | 150 93 |



綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

平定音山書付 及至殿以度上修海之

二月八日 繪原

精壯 常川

在常、出精未部、身、山醫所、並、上修海、台

山侵 堀川之款之痛

日光唯所

右、勤事、姫若、極、乾、清、山、例、山、行、御、候

上修海

一月十二日 中渡、元 元方山初、候

山友傳、大、事、

山友、又、全、情、

在、山、友、方、山、初、候、山、友、傳、大、事、

在、山、友、方、山、初、候、山、友、傳、大、事、

一月十四日 清、度、入、旨

山、友、傳、大、事、

清、度、入、旨

一月十八日

勤事、姫若、極、山、初、候、山、友、傳、大、事、

一月廿一日

勤事、姫若、極、山、初、候、山、友、傳、大、事、

一月廿三日

勤事、姫若、極、山、初、候、山、友、傳、大、事、

一 同日三月四日 内觸書

去々印年より今年より百 内候物に 依りて年徳席
内料理 内湯漬 或 菜飯 未御知 依りて 依りて
存り 依りて 依りて 通 内料理 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて

一 同日三月五日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月六日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月七日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月八日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

存り 内料理 未御知 依りて 依りて 依りて 依りて

神保和泉書

一 同日三月九日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月十日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

存り 内料理 未御知 依りて 依りて 依りて 依りて

全手教時程三科抄
大友近江書

存り 内料理 未御知 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月十一日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

存り 内料理 未御知 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 同日三月十二日 内觸書
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

存り 内料理 未御知 依りて 依りて 依りて 依りて
依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて 依りて

一 四月廿二日

田原王殿

在尚六月廿七日 惟任院柳十二面所志法事
考身外上修付台考 考上修付

一 四月廿三日 坊上等 法成面て三付 中修

寺社等
古修免法考

古修免法考

在尚六月廿七日 坊上等 法成面て三付 中修

一 四月廿四日

任考内記考子

本谷慶舟

在尚六月廿七日 坊上等 法成面て三付 中修

一 四月廿五日 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 坊上等 法成面て三付 中修

一 四月廿六日 坊上等 法成面て三付 中修

本谷

井上

系

法

口

根

伊奈町
日知柳三場池下町
寺九

渡辺
伊奈町
寺六

日知町
寺六

寺六

寺六

寺六

寺六

右在收船大隅寺山後池田筑後守山田十寺入三合

右在寺上
右在寺上
右在寺上

一 二月十九日
一 二月十九日
一 二月十九日

一 二月十九日
一 二月十九日
一 二月十九日

寺六

寺六

右在松平藩之席
右在松平藩之席

寺六

寺六

右在松平藩之席
右在松平藩之席

寺六

寺六

右在松平藩之席
右在松平藩之席

二月

山橋重一某

清使白河甲斐守

徳川大膳入殿

在悠然院殿三四忘有法事中

上使

松平在幕上使
阿久左衛門

凌雲院

恨

有月夕舟清香真上巻

一四八日夕十日正お坊上寺

悠然院極十三回清忘 法法事在殿

一四十九日夕十日正お坊上寺

悠然院極 所吳前上巻 清系清原上巻

一四十九日法法事在殿有山三某初巻仕書席一巻中湯

時辰十

田沼主殿氏

清法事清用長勒舟舟於真上巻

一四十九日嘉祥清院殿出例年

時辰又

寺法事の
上使 松平周防守

日三

山崎在幕の
松平附上巻

在お坊上寺 法法事の舟用撤り長勒舟舟上巻

上使 松平周防守

尾張中納殿

在法事舟中巻切舟上巻

一四十八日 尾張中納殿 遊去舟 舟中巻切仕上巻

写物音 善法一日

一七月一日

在り来六月

公親院掃三回 此志由法事法司掛お奥上候付

一日

寺社奉行

古尾徳吉 吉

此節定奉行

安及厚正 弼

在り身由申をり上候付

桂村出村守

在り身由勤當り 候付

一日

尾法中取殿 申仙乃 此由被

一日

今般 上被 公親院掃 寺社奉行 此節定奉行 明光唯 辰

退り候

在り身由申をり上候付

一七月

此由申をり上候付 申仙乃 此由被

先月申 夜病 白先等 病死 依り 多々 此由

坊山附員 縁末子 教し物 仁徳寺 仁徳寺 此由

一日

田安郡 奉行 清水 八 辰 没年七 辰 申

一八月

此由申をり上候付 申仙乃 此由被

田安郡 奉行

清水 八 辰

没年七 辰 申

此由申をり上候付

白馬甲斐 奉行

一八月

此由申をり上候付 申仙乃 此由被

武蔵 奉行

安房 奉行

山崎 奉行

長門 奉行

柳井 奉行

河内 奉行

横山 奉行

伊保 奉行

二合利

伊保 奉行

一画り身の上書通久

在是助書の方役本末取所
又助書の方役女

法蓮院

彩吉京江所二所目十番辰

松女名孝序 松松女

兼川三

有り

一画り身の上書通久

湯切通行所

存置

彩吉

右助書大隅守是役先中此日局書由日集入三合中海

一画り

金吉方女洋信之信付

法蓮院

紀伊殿家書

佐竹其信書

加初大隅守

在紀伊殿守是役先中此日局書由日集入三合中海

一画り 由月付申 節書

先皇御中幸下多記安元匡子録再建身法匡師公辭
てみし和之公不共集公法匡師公奉附物三合一 桑
道行書殿之依信之申幸之以上

寺役松年在道行書

日光准后

浪山百枚

在 言教院標

沈の院標

心観院標 山皇公

山再建 山皇公 在御公方之也

一画り

初役

院役

新入内侍 女侍役

伊

伊集元之松書
深徳神書
毛利大松書
尾田甲斐書

養父 親母

親母之女子
也 親母一女子

之右

名在女子
尚左

仁文

仁文

親母之女子
中左

新九

右

又

間

子

序

名在女子
序

子

名在女子
序

金谷八

俊成

子

子

名在女子
序

右

口

序

名在女子
序

名

六浦

金春

子

名在女子
序

田村

間

名川

子

右

德板

名在女子
序

子

名在女子
序

九房

小八

間

後

名在女子
序

大次

名在女子
序

後

右

一

物

一

可

一

物

一

物

此

上表之旨如前直江曾友上信清上人相備上以存案
淨便田沼主殿次

古書抄
淨刀朱函具伏金三子板
淨便田沼主殿次
淨出生板

白根平板 二種一荷
淨便 同人

白根平板 二種一荷
淨便 同人
徳川氏社令殿

白根平板 二種一荷
淨便 同人
浄出生板

白根平板 二種一荷
浄出生板
徳川氏丁令殿

右妻後雷刀子物出生七夜一為夜後上表之旨

一十月十日 女子友

在る地極毛牙形通洋橋上信清上人
浄便田沼主殿次

一十月十日
大前之極毛 雜司之谷上為成申中判 上表
浄便田沼主殿次

一十月十日
日光社后供僧

在る地極毛牙形通洋橋上信清上人
浄便田沼主殿次

一十月十日
上夜松平園防書
浄便田沼主殿次

浄岸院板一四所忘牙為所書真
浄便田沼主殿次

一十月廿四日

由初八日付

由合 南内領甲子(表子)三十五名

白頭歳入物

一十月廿五日

由使水北吉傳書

水戸宰相殿

在野所 冲雁申

代惟表方冲雁子冲由生(表子)

冲俊 松平右衛門

徳川指子代殿

一十月廿六日

云方極

冲俊 松平右衛門

大初極

表物十 二種一為

云方極

表物十 張字物

二種一為

松平右衛門 由月人

水戸宰相殿

大初極

表物十 二種一為

云方極

張字物 綿字物

大初極

綿字物 二種一為

云方極

二種一為

大初極

生綱一打

在野所代殿 由七夜(為古夜後)七夜

水戸宰相殿供忠

表物十 二種一為

徳川指子代殿供忠

中井巴左衛門

卷物中
二種一為

右向以有石名上之

所子自
寺野中蛇

在寺名以上夜寺物之寺礼寺名城也

所産之有 所村教古使 所居持 所礼之住上

一十月十日

全寺抄
世極抄

寺後

小林孫四郎

在寺下徳國 室名城使信白木葉尺子為所用

一日十日

世極抄
寺野抄

寺白書院

室部

松平孫四郎

石原主馬

水戸等相殿

光物中
全寺代

初寺月見

寺野子嫡子

細川 綱次

侍所月見寺礼

細川 執事

卷物中

一十月十日

寺野村名 白寺古料理寺下 付所寺名 兼流
湯法寺名寺野代 虎尾寺 乃法寺 兼寺寺名 城也
所産之有 所月見寺野寺 寺料理寺下
法寺寺名寺野寺 寺野寺

在寺古料理寺下 寺野寺 乃寺野寺 寺野寺
寺野寺 寺野寺 寺野寺

一十月十日

右京酒井右衛門督及中尾中尾人右後後尚十人及我職

三月少之書法方由掃障共

河村老八

在橋金公席

堀上平三席

在鞍馬大陽寺御所及東山井上野守三合之院中席

十二月十九日

少部定成席

上宅能源左席

也源右席

依平傳以席

松本十少之席

在十中書院金五洞古用骨打長勒以年五席

時後二

十一月十日 月以 涉礼在席

序度

婿婿調 涉礼

佐川大藏人殿

系府

古井大炊氏

孫女婿調 涉礼

阿部甚後書

老物

一口生之 友位之 紙付之 月

紙任抄付

紙任付後

紙叙也示

松平大信大吏

松平相持書

松平吉茂氏

酒井大忠門尉

長叙四宗

松平敬中書
松平友之儀依

根下板

稻地 兼川
川

右奥向山用岩打板初以舟也下(旨)

一三月以片

山初走手片

全之板 時板三

川井 誠 宗書

全之板 時板三

淺井 備 宗書

別板 日 二

新 辰 能 宗書

全之板 時板二

水 形 安 人

右之上册

山初走手片
上之册 源 宗書

高春院板 院時院板

心 院 院 板 宗 春 院 板

山初板 山重板 山用之板 初以舟也下

全之板 中

大 林 興 宗書

別板 根下板

重 田 新 助

根下板

石 川 宗 宗書

全之板

廣 康 伊 八

口

新 小 市 宗書

根下板

河 久 宗書

浪士伝

山打尾岩寺

豊田右左衛門

右月乃三舟 上ノ

一十二月廿下

山打尾岩寺
お内編款

儒者

林石助

右林月池幼年より月並清和妻而重賞秋葉
千亦中用大月池以之と千力て其勤多依（布衣
上修付向後席（依）法中（法眼）（医師）次上
より前旨 ○千五百元之石并九十人ノ十
聖堂傾子石

一曰廿下 夜之村色 子福田町裏 鍋傳 市力下 急發也火

書法方 山打尾岩寺

山打尾岩寺
川村 吾八 石橋 令 公 席 橋 平 三 席

右枚神大隅書お由乃色 井上 教子 三合 大隅書中編

一曰廿下

市力延壽園賢

尾波教傳者

大道寺 猪河馬

右原孝殿為市色（物）上ノ

一曰廿下 夜ノ村色 地震

山打尾岩寺

伊波志ノ書

令二村 村振二

山打尾

村上三平席

令二村 村振二

山打尾之山打尾

山打尾

右ノ上ノ 心観院杯 山打尾 市堂塔

市輝殿 市并 山打尾 市用 市ノ 市勅 市并 市上ノ

一曰廿下 夜ノ村色 地震

召明方重をとり知れませ及往來之在平地此也
四子ぬり句備夜舟を来たに所入七百に十百板家一
形先之跡入を亦宅形位へ東居形形合形在象
と棟斗も尺一の中は象建地或中ぬく千象根
かよくと交斗とふくはる海サ交形迹入いと其見
ふもサ百さす空同初積卒さる物之を自物ぐ
月とあり屋のやうに急子居のまへに其ぬり中平後
こむめぬし中し子形か此象のやうにゆりし後
し人の怪形知れぬか本をともさく象も外
の家かり形もむしひきく象のいり象杖を掛てこひ

たのむをたれまへてふくへのけりん大家中のぬり家
同の志出ぬる中常出の中は史よりいふその志
るくを平召遊立遊一を此の流子右大家中の命
若き女死をよみ知れぬれ舟ぬり人ぬりい其い射も
判事一は流連一は舟千伝一は金一は舟千子ま交斗
三ぬり史をたぬりあやむるぬりぬりぬりぬりぬりぬり
入とすありしは是虚流ぬりぬり月か七のこも家よて
若き女死のぬりぬり有しぬりぬり

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or official document, spanning the right page.

安永二年
十一月十日

二條在書札年石見書止九人至法於伊織本口但
身入下信云在()七()子()在()伊織本口月其()
空人志去月終()伊走()不()知()其()由()途()而()上()織()田
陸()函()書()也()

伊織本口在門西波書 与()書()
与()書()本()組()去()條()主()格()心 与()女()有()心



上封奉 日本國對馬洲太守拾遺平公閣下 復
朝鮮國禮曹參議金相翊謹封
朝鮮國禮曹參議相翊奉復
日本國對馬洲太守拾遺平公閣下
槎使忽届
華札隨至仍諦
啓居清勝慰忱良深漂海人口既蒙
極滄文
勅資遣

上封奉 日本國對馬洲太守拾遺平公閣下 復
朝鮮國禮曹參議金相翊謹封
朝鮮國禮曹參議相翊奉復
日本國對馬洲太守拾遺平公閣下
槎使忽届
華札隨至仍諦
啓居清勝慰忱良深漂海人口既蒙
極滄文
勅資遣

勅資遣

四張付油花

黄毛筆

真墨

白際

辛卯年七月日

礼曹参議金

相印

貳部

参拾兩

参拾符



雨雲

白雲

雨雲

長九尺余

横四尺余

目形三日月如之

墨十里如之

右
 安永二己のち一岡二月十日己ノ剽ヨリ
 寅の別延原この方らんを云ノ國



大八茶
 日
 日
 日

テレノ國ノ武士人物ノ号ノ如シ



はあ人一種の形ち徳欲徳礼の相ありて常に入れよ
 あまより種をなまされぬのあことあまをなまされ
 しより取れまはは成候うしとあまをなまされぬ

通しつゝ子孫傳授ののちありて又所入百姓も
あつて癩者ももろく存せしむるにたゞは髪を
て髪の色も月代様中利産一帯より荒柿の
く一回と三世人をせしむるに夜宿ち多し号
眉毛細く又薄く一髪もなく一髪も局と各
むすもさうしてちよき一髪もさうして
形り一帯ハタ毛もさうして一帯中きし一帯
膚もさうして眼のちよき一帯一帯もあひの
のちよき一帯もさうして一帯もあひの
幅様一帯一帯もさうして一帯もあひの
ゆふをさうして一帯もさうして一帯もあひの

あつたまゝに物をもさうして一帯もあひの
もさうして一帯もさうして一帯もあひの
まんたつ帯にもさうして一帯もあひの
られもさうして一帯もさうして一帯もあひの
うとまれもさうして一帯もさうして一帯もあひの
あつたまゝに物をもさうして一帯もあひの
ゆふをさうして一帯もさうして一帯もあひの
りはてしなくのちよき一帯もさうして一帯もあひの

あつたまゝに物をもさうして一帯もあひの

安永二年正月廿四日

所舎初免

香清山也釋

のころある春の口々にあはれ

あはれあはれあはれあはれ

院中制

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

周の月

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

徒三位為奉

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

徒三位為奉

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

兼門院免

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

一日四十八日

仙洞所會也

壽叢後云

本ははらちれは月日のつたの事母のたのむる
たもたりのまはる

日向内系

よのひよりいひはとあるん
たれちのりひはたあ

後三位后奉

まし女房のまきく
たあうりもあつるは月日の奉

後三位后奉

つまはら

毎のすこまの信もとの國のみはら
つまはら世のまはら

奉門院見

たれどつたのたのはとするまはら
たれどつたのたのはとするまはら

